

建築基準法第28条第4項の取り扱いについて

鳥取県生活環境部くらしの安心局住宅政策課

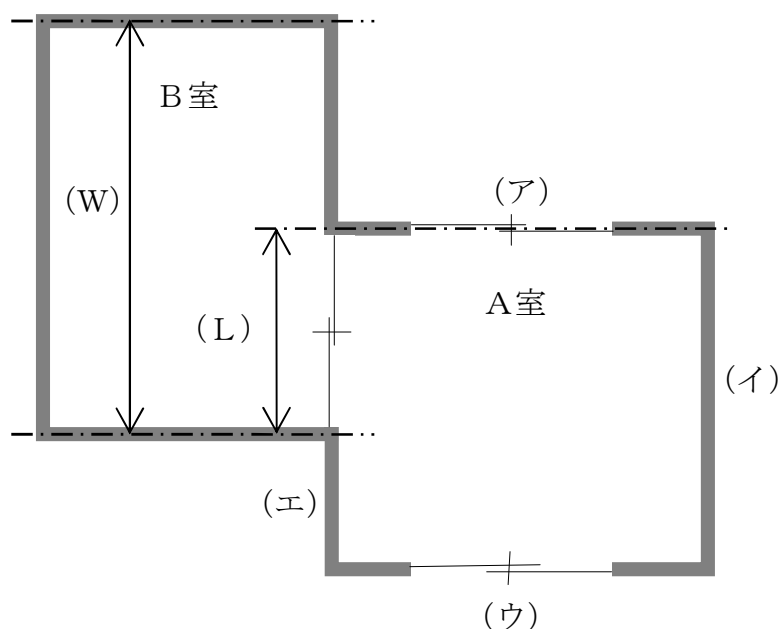
平成23年10月20日

最終改正 平成25年3月7日

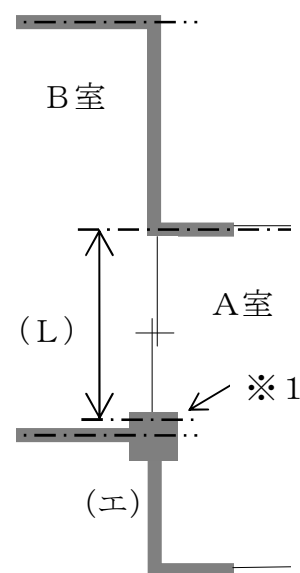
建築基準法第28条第4項に規定に基づき、居室の採光について2室を1室とみなす取り扱いは下記の要件を満たすものとする。

記

2室を仕切る襖、障子その他随時開放することができるものの開口幅（下図の(L)）が、他の部屋を介して採光する室の幅（下図の(W)）の $1/2$ 以上あること。



《 図－1 》



※1 柱仕上面から壁厚の $1/2$ の位置を壁芯とみなす

《 図－2 》

- ・ (L) は、(W) の $1/2$ 以上が随時開放可能なものであること。
- ・ A室の採光する面は問わない。(《図－1》の(ア)～(エ)のいずれの面でもよい。)
- ・ (L) 及び (W) の幅は、壁芯間の距離とする。ただし、(L) の端部に壁厚の1.5倍以上の幅の柱がある場合は、《図－2》のように柱仕上面から壁厚の $1/2$ の位置を、また、(L) の端部に袖壁がある場合は、(L) の有効開口端部から壁厚の $1/2$ の位置を壁芯とみなして (L) の幅とする。

【解 説】

他の部屋を介して採光する室の昼光率の極端な偏りを避けるため、随時開放可能な開口部の幅は、他の部屋を介して採光する室の幅の $1/2$ 以上必要とした。